

令和4年度第2回京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会 会議録

- 1 開催日時 令和5年1月6日（金）午前10時00分～正午
- 2 開催場所 京丹後市役所（2階）201会議室
- 3 出席者氏名
 - (1) 京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会委員（6名中6名出席）
行待佳平 委員長、堀田多規子 副委員長、田中匡代 委員、小谷順一 委員、川口勝彦 委員、吉岡高博 委員
 - (2) 事務局、関係部局
松本晃治 市長公室政策企画課長
大江敦博 市長公室政策企画課長補佐
溝口容子 教育委員会事務局教育総務課長
川村義輝 教育委員会事務局学校教育課長
松本祐奈 教育委員会事務局学校教育課主任
安達 純 教育委員会事務局生涯学習課長
坪倉武広 教育委員会事務局生涯学習課長補佐
- 4 議事等
 - (1) 委員長あいさつ
 - (2) 議事
 - ア 基金運用益等の状況について
 - イ 令和4年度基金運用益等活用事業の実施状況について
 - ・グローバル人材育成事業
 - ・韓哲・まちづくり夢基金事業補助金
 - ・高等学校全国募集入学生応援事業
 - ・第2回京丹後市民陸上記録会
 - ・おとまち響プロジェクト推進事業
 - ウ 令和5年度基金運用益等活用事業（案）について
 - ・グローバル人材育成事業
 - ・韓哲・まちづくり夢基金事業補助金
 - ・高等学校全国募集入学生応援事業
 - ・京丹後市文化芸術振興計画及び文化庁移転に伴う文化芸術推進事業
 - (3) その他
 - (4) 副委員長あいさつ
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴人の人数 0人

7 要旨

《議事経緯》

(1) 委員長あいさつ

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。卯年なのでいろんなご挨拶の中で「飛躍の年」というような意味で使われているが、韓哲基金の内容で考えるとグローバルな人材を育成していくというような話もたくさん出てきている。今年の正月にインバサイにいる人からハッピーニューイヤーのメールをいただいた。インバサイってどこかと聞いたら、ブラジルのサルバドールという場所の近くのリゾート地だそうで、お正月もそういうところで過ごす人もいっぱいいるんだなと世界がすごく近いなと思いつつ過ごしていた。今日も吉岡さんはリモート参加だが、どこでも身近にあるような時代に入ってきたというふうに思っている。そういう意味では、大いなる飛躍の年になっていくように感じている。本日はいろんな今年度の事業の報告や次年度についての審議をいただく。よろしくお願ひしたい。

(2) 議事

ア 基金運用益等の状況について

(説明) 資料に基づき、事務局から説明。

(質疑応答) なし

イ 令和4年度基金運用益等活用事業の実施状況について **資料2**、**資料2-1～2-5**

ウ 令和5年度基金運用益等活用事業(案)について **資料3**、**資料3-1～3-4**

(説明) 資料に基づき、事務局から今年度事業の中間報告と次年度事業の提案。

(質疑応答) 各事業に関する質疑応答は下記のとおり。

【グローバル人材育成事業】 **資料2-1**、**資料3-1**

(委員) 発音矯正アプリは中学生が対象だということだが、今、学校教育では英語は小学生からやっている。その場合、発音が非常に重要なのではと思う。小学生で発音が固まってしまってから中学生で矯正していくのが良いのか、小学生から導入するほうがいいのか。日本語がしっかり話せなかったら進められないとも思うが、その辺りの考え方はどうか。

(学校教育課) 英語に触れるのは若ければ若いほどいいというふうには考えており、現在小学校3年生から英語の授業が実際に導入されている。予算を協議する中でも小学生から導入してはどうかという意見もいただいているが、中学校で本格的に英語の授業が始まり飛躍的に語彙力や英語の基礎が付いて伸びていくのが中学校2年生からだということでもまず中学2年生からの導入ということになった経緯がある。中学校で使っているだけでも十分英語の発音が良くなっているというようなデータもあるため、やはりまずは中学校で導入していくということで今年度も来年度も行っていきたいというふうに考えている。

(委員) グローバル人材育成については英語が中心になっているが、別の話になるかもしれないがたまたま正月に孫が帰省しており、タブレットを持って帰って勉強している様子を見てびっくりした。その内容は、小学校 1 年生からでもプレゼンテーションができるような人材育成の取り組みをされていた。他にもアニメーションを作るなど我々の時には考えられないような世界だが、小学校の時からそういうことを授業でしており驚いた。特にびっくりしたのは、家で味噌汁を作るという宿題があり、家で作ったものをタブレットに入力すると、誰がどんな味噌汁を作ったのかという内容が学年の生徒で共有できるというもの。それを、アニメーターを作るといった他の授業でも共有されている。そういうことが京丹後市でもできているのか少し疑問に感じた。今回は英語力をつけるためだが、他の面での活用もまだできていないようであれば必要ではないかと感じた。実態はどうなのか教えていただきたい。

(学校教育課) 個別のことは置いておいて、似たようなことは現在タブレットを使って行っていると認識している。小学生からプログラミング教育、今年度は特に中学校でも「メッシュ」というものを使って、技術科の授業でプログラミングに触れるということも行っている。現時点ではタブレットをいろいろと活用して授業が行われていると認識している。

(委員) 楽しんで興味を持ってやるのが伸びることに繋がると思う。自分が 40 歳ぐらいの時に中学校にコンピューターが 40 台ほど導入されて技術の時間や他の授業でも使うという話であったが、実際には全然活用できなくて終わってしまった。技術や国語の時間でも使うということだったが、実際に使える時間が教育課程の中に組み込まれなくて活用することができなかった。そういうことも含めて、この英語の時間がしっかり子どもたちの取組の中に組み込まれていて楽しく興味を持ってやれるかどうか。自分たちがよく言われたのは、国語の力のない者は英語の力もないよと言われた。子ども達も、やはり読解力も含めて国語の力のない子はアプリだけで興味を持ってないという子どもの実態も掴んで教えていかないといけない。アプリをやってるから全部子どもが伸びると思ったら大間違いだと思っている。その子の興味や関心を受けて、能力的なことも含めて、その子どもの時期に合ったタイミングが大事。ある幼稚園では、幼稚園の時から実施しているが、本当にそれが伸びていったかという伸びていない子も多いとされている。早くやったらできるかというものではなく、いかに子どもの能力に応じた時に教えられるかということ。小学 3 年生でも 2 年生でも 1 年生でも、子どもが興味を持ってやれるときが一番だと思っている。遅い子も早い子もあると思うが、慣れるということが一番。不安を持ちながらアプリをやって英語の教師が関わっていても絶対子どもは伸びない。安心を持ってやっていったらできると思う。アプリについても、本当に子どもが楽しんでやれているかと聞いたら、楽しんでやれているということだった。そうであるなら子どもたちに早くから持たせて興味を持ってやらせるのが一番。

(委員長) これは提言のようなものなので、アプリの導入をいかに活用していくかということは教育委員会の裁量だと思う。よろしく願いたい。

(委員) 京丹後市でもこのグローバル人材のプログラム以外でもいろいろとやっているということだが、一般市民はほとんど知っていない。そういうことはもっと情報を出したほうが良いと思うので、今どんな教育をしているかということをもっとPRされた方がいいのではないかと感じた。

(委員長) 我々が知りたい。審議する上では、理解する上で我々もこういうことをやっているということを事前に教えてもらえれば非常に審議が進むと思う。よろしくお願いしたい。

(委員) 学校教育の内情を分かっていない者が言うが、子どもや孫が身近にいたらそういうことも見聞きするかもしれないが、我が家にはそういう年代の情報を得るところがない。細かい教育内容が情報としてないのは確かだが、グローバル人材育成事業は本当に素晴らしいと思うので継続していかなくてはいけないことだろうと感じている。ただ、子どもたちがタブレットにしてもコンピューター自体がとても身近なものになっている。私達の年代よりもよく使いこなせている子たちだと思う。それを考えると、先生方がそこについていく、それを生かしてあげられるだけの教育をすることが大変だなと感じている。個々の子どもたちに生かせるような先生方の研修の形なども考えていただいているとは思いますが、先生方がご苦労だと感じる。こういうものを生かすためにも、先生方の研修の機会というものも作っていただけたらと感じた。

(学校教育課) 先生の間でも、ITに詳しい方やあまり得意でない方など個人差があるのは否めないと思っている。タブレットやコンピューターを使って授業をいかに効率よく行っているかというような授業の研究や努力、工夫を常にされているので、そういった部分については日々考えて対応していただくと考えている。教育委員会としてもICTサポーターという職員を置いており、学校からのタブレットやアプリの使い方に対する問い合わせなど不具合が起きたときの対応については適時行っている。

(委員) コロナによりオンライン留学になったとのことだが、来年の予定としては現地に行く予定なのか。現地参加の方が良いとは思っているので、現地参加できる方法を考えていただけたら良いと思うがどのような予定か。

(学校教育課) 来年度は行きたいと今のところは考えている。実は今年度の秋ぐらいにも、予定をしていたニュージーランドから受け入れができるという連絡をいただいたが、その時点から準備を進めるには少し時間が不足し、また、派遣した際にニュージーランドでコロナにかかった時には日本に帰国ができない状況も出てくる。子どもだけ残して帰るわけにはいかないのでは誰か引率者を置いて対応しなければならないという問題もあり、今年度は断念した経過がある。来年度はこのまま行けば何とか行けるのではないかと見立てをしている。

(委員) 色んな状況を加味しながら、来年の状況を踏まえて子どもたちのために考えていただきたい。

(委員長) コロナについては令和5年度にはおそらくインフルエンザ並みになると政府が見込みをしているような報道もあるので、世界の状況は分からないが今

よりは少し楽観的な予想はできるかなというふうに思う。

【韓哲・まちづくり夢基金事業補助金】資料 2-2、資料 3-2

(委員) 落語体験塾は何人ぐらいの中学生が参加されたのか。以前テレビで他府県でも中学生が落語体験をされているのを見たことがある。実績は。

(政策企画課) 峰山中学校 1 学年を対象に実施をしたもので、具体的に何人という正確な数字ではないが 100 人程度の規模という理解をいただければ良い。

(委員) 子どもたちのために基金を使うという趣旨だと理解しているが、補助金があるのでやっているという事業も上がってくると思う。子どもたちからの提案のようなものをこの補助金に乗せて実施できるようなシステムが考えてもらえると思う。難しいことだとは思いますが、子どもたちがやりたい事業を補助金として実施できると子どもたちのためになるのでは。上手く仕組みが作れたら面白いと思うので提案として発言させていただく。

(政策企画課) 委員がおっしゃられた通り。基本的には子どもたちのためにということで、もともとの原資についてはマルハン様からいただいた寄附金を定期にしてその運用益で事業実施をしているもの。ぜひそういった検討はしていきたいと思う。子ども達からの提案を受けることについては、子ども達の学年や年齢層によってどれだけ自分達で考えて提案できるかというところがあると思うが、大人が関わりながらしていかないといけない内容もあるかと思う。一方、子ども達だけで十分やれるようなものもあると思う。いずれにしても子ども達のやりたいことを実現するための仕組みができるかというところに繋げていけるかというところがポイント。そういった仕組みづくり、制度設計のような部分でいただいた意見が生かせないかという検討もしていきたいと考えている。

(委員長) 規約に関わってくる問題でもあるのでその辺は慎重に考えていただきたいと思う。

(委員長) 例年、スケジュールについて事業を早めに実施したいが交付が遅いという認識だったが、事前着手が昨年から可能だったのか。

(政策企画課) その通り。

【高等学校全国募集入学生応援事業】資料 2-3、資料 3-3

(委員長) ずっと続いていくと最大 6 名が 3 年間ということで 18 名が最大だと理解すれば良いか。

(教育総務課) 最大は 18 名。

【第 2 回京丹後市民陸上記録会】資料 2-4

質疑等なし

【おとまち響プロジェクト推進事業】資料 2-5

質疑等なし

【京丹後市文化芸術振興計画及び文化庁移転に伴う文化芸術推進事業】資料 3-4

(委員) 文化芸術実践会議について報償費や委託料が今回の基金の充実に該当して

いる。会議が基金の補助として妥当かどうか疑問に感じている。また、京丹後市展では市民が誰でも気軽に発表できる場ということだが、使用料及び賃借料 100 万など費用があるが具体的にどんなイメージなのか分ければ教えていただきたい。

(生涯学習課) 市展の具体的なイメージだが、市民誰もが発表したり鑑賞できる場として考えており、例えば会場として大宮社会体育館など大きな会場を使い、絵画や写真、陶芸や書道の書などジャンルを分けて展示できればと思っている。また、市内で活動されている団体があるため、体験ができるワークショップ的なコーナーなどもつくれたらと思っている。審査部門のようなものを創設し、審査してほしい方には例えば市長賞なども設けることができたらと思っている。内容としては、第 1 回となるため市民の皆さんに作品募集してもなかなか集まりにくいかもしれないので、基本的には現在文化協会が実施している協会会員しか出展ができない総合作品展について、市民の皆さんを対象を広げるというイメージで考えている。

(事務局) 実践会議の謝金の妥当性について、明文化されているこの韓哲基金を充てるための条件としては、飲食に係るものについては駄目ということは明記はあるがそれ以外は基本的には市の教育、文化、芸術またはスポーツの振興、地域経済活性化のための新産業の興隆、その他のまちづくりに繋がるものについての経費を認めていこうという大きな括りしかない状況。今のところ事務局としての考え方については、こういったようなことに寄与する取組の謝金ということになるであろうということ整理させていただいてはどうかと考えている。

(委員) 京丹後市展の概要を聞かせてもらったが、毎年文化協会が秋に各町ごとくらいで文化展をやっているものとは別に実施するのか、京丹後市の文化展として一般市民を含めて大きくやるのかというあたりはどうか。そうであれば、今までの文化協会の活動を支援するというような形で良いのかとも思う。ただ各町でやっているかは自分は知らないが、対象を広げるという意味では必要かなと思う。それから、実践会議の目的が文化芸術振興計画に基づいた具体的な施策や事業を企画提案するというようなことなので、京丹後市の中での会議という位置付けだと思うので、本来は市すべきものではないかというのが自分の意見。この基金ですべきものか疑問に感じたので発言をした。

(事務局) 事務局としては先ほど申し上げた通りの捉え方をしているが、今予算編成をしている中でこういった基金を充ててこの事業を取組んだらどうかというプロセスで今話を進めている。その中で、委員がおっしゃるように本来市の計画を進めるための委員会を立ち上げたその謝金を基金でするのはおかしいという部分について、他の計画でも委員会が立ち上がっているのので、これを基金で充てるためには整理も必要かなと思う。一定事務局では今そういう捉え方をしているが、これからさらに審議なり吟味を事務局としてさせていただき、継続して検討していきたい。

(生涯学習課) 文化祭や作品展は基本的にどこの町もされている。今回この市展の

検討をする際にも文化協会に相談し、一番裾野が広がっているものが各町ごとの作品展がそうではないかということで、これを市展に変えることができないかという検討もした。町時代からの開催でずっと続いてたものであるため、それぞれの町でその性格が随分と違う部分があり一緒にできないなという文化協会の各支部からの意見もあり、ゆくゆくの思いとしては皆が参加できるよう町ごとの作品展を一体的にすることができたら良いなという思いは持っている。今後そういったところも一緒に考えていけたらと思っている。

(委員) もう一つ、各町ごとでの文化協会の文化展とは別に、各地域で小規模でしている文化祭もある。むしろ、一般市民を巻き込んだ誰もが気軽に発表ができるという部分では、各地区レベルの文化展の方が重要かなと自分は感じている。会議にこの運営基金を充てるかどうかということは別にして、そこのあたりに焦点を当てた方がもっとこの事業の広がりやPRができるのではないかという気はしているので検討の中に入れていただけたらどうかと思う。

(委員長) 関連して、市の文化祭みたいなことで市民参加は分かるが、賞を設けるといことになるとすごくレベルの高い話になって、最終的にこの芸術祭に向けて頑張れという話になる。今委員が言われるように、そこから広げていかないといけないというレベルの話なのではと私も感じていて、その辺は少し考えていただけたらと思う。よりハードルを低くするのか高くするのかによって政策が変わってくるという気がする。

(委員) 文化協会からこの委員会に出させていただいているので、事前に生涯学習課からそういうお話は聞いており文化協会の中でも話はしてきた。委員長がおっしゃるようにレベルをどこに持っていくかというあたりで発表の場が変わってくると思う。実際、各支部によって特色が違う。底辺を広げることとても大事だが、それとは別で各支部に出展している人たちの思いとして、支部のものには出せるが市の総合作品展に出すにはレベル的なことなどから気後れするという気持ちで、何となく住み分けができていないのではないかという感覚は持っている。今回のこの市展に関しては、もう一つ質の高いものを目指しての視点ではないかなと話を聞いたときに感じていて、先行して実施している福知山市や豊岡市などは市展の歴史があるので高いレベルを目指している人達は市展を目指してやっているというようなことも見聞きする。京丹後市も文化的により高いものを目指す上で、市展がそういう位置付けになっていったら良いということで始められるのではないかという理解をしている。各支部の作品展や地域の文化祭は、みんなで集まって作ったものを見てもらうというものがスタートであって、そのもう一つ上で目指していくものかなというふうに思うので、底辺を広げるという意味ではそれぞれの支部での高齢化で作品が少なくなっている現状はあるが、そこの支援も大事ではあるが、ベースにしながら総合作品展、市展という質の高いものを目指していくというものになっていくということで、この市展という位置付けではないかと受け取っている。

文化協会としての受け取り方をお話させていただいたが、おっしゃる通りこれも夢基金から出すかという辺りは検討の余地があることなのかもしれない

いと感じるが、市展の位置付けとしては審査の対象も考えていくことでより上を目指していくとなると、文化事業団が実施している美術工芸展の内容と重なってくるので検討の余地があるのではということが協会内では話が出ていた。上のものを目指すという意味での市展という位置付けであることをご理解いただけたらと思う。

(委員長) 振り返って考えると、この夢基金はグローバルな人間を作り上げていくというもの。やはり京丹後からいろんな人材を輩出していくことが目的の夢基金であるということは、ハードルが高くてもいいということ。市民全体のことをやるのはこの基金ではなく市がやること。この基金はスキルの高い人を作っていくための基金であるのかなと感じている。今までの経過を検討していった中で、例えばレスリング部の学生の家賃補助にしても、グローバルの人材を出すために援助してあげようという話。委員さんが言われたように、レベルの高いものを一つ設置してそこに向かってスキルの高い人を育てていくということなのかなと思ったりもしている。委員の皆さんの意見はいかがか。

(委員) その通りで、そうであるならそういう書きぶりをしていただいたらすんなりと入る。ここの書き方ではどういうことをするのかということしか分からない。もっとハイレベルのいろんな芸術家を輩出していくということは、これとは別のところで企画をしてもらったら問題がないと思う。会議については、他のいろんな計画にも実践会議があるのでそこら辺との整合をとってもらった方がいいかなと思う。

(委員) 以前実施した大京都のイベントの時、レベルの高い芸術家の人達が来られて何日間か実施するという事業だった。今回は1日だけの事業なので、もっと「芸術日」のようなものを数日間設定して市民が気軽に参加できるようなものと合わせて、大京都のようなレベルの高い人の内容も併せて実施するなど、見せ方が重要だと思っている。お金の使い方としては、芸術家の方に来ていただいてそれをどう市民も参加してもらえるのかを考えた方が上手くまとまるのではと思った。参考にさせていただけたら。

(3) その他 資料4

(説明) 資料に基づき、事務局から次年度のスケジュールを説明。

(質疑応答) 特になし

(4) 副委員長あいさつ

本日は大変長い時間いろいろなご意見をいただき、熱心に審議していただいた。春に私も初めてこの審査会に出席させていただき、市民提案型事業を採択させてもらったわけだが、無事進められておりこの基金が活用されていることを大変嬉しく思っている。また、今日は次年度の事業の提案もいただいたので、市で今日の意見を踏まえて有効な活用ができるようにしていただきたいと思う。今日はありがとうございました。ご苦勞様でした。